



U18日本陸上競技選手権で入賞

こばやしけんしろう
小林賢士郎さん(17歳)日高町日置
 つかはらけいた
塚原啓太さん(17歳)日高町国分寺



厳しい参加標準記録をクリアした16、17歳だけに出場権が与えられる、第12回U18日本陸上競技選手権大会(10月19〜21日・名古屋)で入賞したのが、豊岡高校2年生・小林賢士郎さんと塚原啓太さんです。

小林さんは三段跳に出場し、8月の県ユース大会で出した高校生の但馬記録を17cmも更新する14m71cmで7位入賞。「前日は緊張したが、当日はテンションが上がり楽しめた。調子が良かったとはいえず、自分が出した記録に少し驚いた」と大会を振り返ります。

塚原さんは400mハードルに出場し、予選で高校生の但馬記録、53秒18を叩き出して決勝に進み、8位入賞。8月末に足首を骨折するという災難に見舞われましたが「歩けない間もできるトレーニングを続けたことが記録につながった」と笑顔で話します。

来夏の全国大会に向けた目標は「メダル獲得」と小林さん、「県大会から一つずつ勝ち抜く」と塚原さん。小学5年生から共に取組む陸上の集大成に向け、努力を続けます。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲ゴールを目指し力走するランナー

キューピットマラソン大会 寒さを吹き飛ばす温かい応援

11月23日、たけのこうえん(竹野町須谷)発着の特設コースで、第32回キューピットマラソン大会(主催・竹野町体育協会)が開催され、約40人のランナーが健脚を競いました。

大会は、5kmと3km、ジョギングの全3部門が同時にスタート。青空が広がったかと思うとあられや雨が降ってきたりと、刻々と天候が変わる中、選手は沿道の家族やスタッフからの温かい応援を背に、全力でゴールを目指しました。

3kmの部・小学生低学年男子で優勝した植田 紬士君(中竹野小3年)は「あられが当たって痛かったけど頑張れた。来年の大会に向けて練習したい」と決意を新たにしていました。

安國禅寺のドウダンツツジ 豊岡の誇り 全国屈指の紅葉

11月7日から20日まで、但馬安國禅寺(但東町相田)でドウダンツツジの一般公開が行われました。ここ数年、報道や、インスタグラムなどのSNSの影響で、知名度・人気共に全国的なものとなり、連日、「インスタ映え」を求める多くの拝観者などでにぎわいました。

樹齢約150年ともいわれるドウダンツツジは縦横に大きく広がり、本堂の座敷越しに見ると、まるで額縁に入った絵画のよう。夕暮れ時からはライトアップされ、燃えるような赤色と人物のシルエットの対比が見る者の心を捉えて離しません。

住職をはじめ、地元の方々の並々ならぬ努力で維持されているドウダンツツジ。豊岡の宝です。



▲まるで絵画のような完成された空間